

会 議 録（委員意見及び事務局回答）

会議の名称	令和5年度 飯塚市環境審議会(第3回)
開催日時	令和6年3月26日(火) 10時～
開催場所	飯塚市役所 本庁3階 301会議室
出席委員	嶋田委員、香月委員、依田委員、堀委員、高尾委員、雨郡委員、池部愛梨委員、池部愛麻委員、井上委員、中川委員、古川委員
欠席委員	佐藤委員、佐々木委員、河邊委員
事務局職員	尾形課長、原係長、武田
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>議題(1)(2)第3次飯塚市環境基本計画「令和5年度実施状況」及び「令和6年度年次報告書」について</p> <p>議題(1)(2)について説明後、補足説明・質問委員ごとに対する回答</p> <p>○補足説明</p> <p>●補足説明(1)_P7『第3次飯塚市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の推進』</p> <p>この事務事業は、エネルギーの使用の合理化に関する法律（通称：省エネ法）に基づいて、飯塚市が一事業所として、市が持っている全ての施設におけるエネルギー使用量及びCO₂排出量の削減に向けて取り組んでいるものになります。</p> <p>評価指標は、市所管施設における温室効果ガス総排出量を設定しており、2030年度（令和12年度）までに、基準年度である2013年度（H25年度）から55.1%削減することを目標としています。目標値の14,179 t-CO₂というのは、この55.1%削減した場合の数値を示しています。令和4年度の実績値は12,191t-CO₂であったため、61.39%削減している状況であり、既に目標値を達成している状態にあります。しかし、これからも気を抜かず、より一層、職員一人一人の意識や行動について見直しを行い、引き続き省エネに関する取組を進めていく必要があると考えています。</p> <p>各項目ごとの詳しい排出量状況については、お配りしております別紙資料「事務事業 No. 324-1_補足資料」をご覧ください。</p>

○質問-回答

●質問(1)_P1『森林・山村多面的機能発揮対策交付金の交付』

この交付金はどのようなものでしょうか。また、対象となる団体、交付金の周知方法はどのようになっているのでしょうか。

⇒【回答】

こちらは、森林の有する多面的機能を発揮するため、地域住民等による森林の保全管理活動等に対し、国・県・市が共同で負担した交付金の交付により支援する制度です。対象団体としては、地域の森林資源の利用を図ることを目的として設立し、森林所有者、地域住民、自治会、地域外関係者等の地域の実情に応じた、3名以上の者で構成された組織とされています。周知方法としては、交付金の申請窓口である、福岡県森林組合連合会及び、福岡県のHP等で周知されております。

●質問(2)_P1『竹粉碎機の貸し出しによる放置竹林伐採の促進』

竹林伐採面積の令和5年度実績値が、令和4年度実績値や令和5年度目標値と比較し、かなり少ないように見受けられますが、どのような要因が考えられますか。また、竹粉碎機貸出の申請は何団体ほどあっているのでしょうか。

⇒【回答】

まずこの事業は、里山の荒廃や放置竹林の解決のため、市民や市民団体に対し竹粉碎機の貸し出しを行うことで、竹林整備を図るものです。記載の実績値は、貸出し制度を利用し竹林を伐採した面積となります。伐採面積が小さくなっている要因としては、制度開始時には多かった需要が落ち着き、新規の利用が少ないことが考えられます。利用申請は5件（貸し出し日数は13日）と少なくなっています。市報等で周知を行っていますが、他の発信方法も検討する必要があると考えています。

⇒【再質問・意見】

①竹粉碎機で粉碎した後の竹はどうしているのでしょうか。ただ小さくして処理するだけではもったいないと感じます。リサイクルし他のものに生まれ変わらせるといったことはできないのでしょうか。粉碎～再利用までのプロセスが見えるようになると、意義を感じて利用者が増えたり、広報や周知もしやすくなるのではないかと考えます。

②竹林について、どれくらいの年数でメンテナンスしていかなければならないといった、伐採サイクルというものはあるのでしょうか。サイクルが分かっているならば、一度利用した方に計画的にお知らせすることができ、繰り返し利用してもらえないのでしょうか。

⇒【再質問・意見に対する回答】

①竹粉碎機で粉碎した竹は、細かいチップ状になります。費用対効果の面からリサイクルなどは行わず、使用者の方にて処分していただいております。そのまま山に拡散されている方が多いですが、所有されている畑や田んぼに肥料として散布される方もおられます。

②竹は少しでも残っていると再び成長し、数年で竹やぶに戻ってしまいます。一度で全伐するか、間伐を行い、竹林を整備するのかわにより利用回数は変わってくると思いますが、重労働であり、コツコツとやられる方が多いと思われますので、ご意見のとおり、1度使用した方へ再度利用していただけるような声掛けは行っていく必要があると考えております。

●質問(3)_P2『外来生物の拡大防止』

特定外来生物の発見報告を受けた際の人的負担が大きいことが課題とありますが、特定外来生物が発見されたとき、具体的にどのようなながれで確認や報告が実施されるのでしょうか。また、今後の人的負担軽減について想定している方策はあるのでしょうか。

⇒【回答】

特定外来生物の報告発見があった際には、まず、通報者に発見した場所や日時を確認し、発見した生物がセアカゴケグモやヒアリなどの危険な生物であった場合は素手で触らないように助言を行います。発見者による生物の駆除や捕獲、写真の撮影が難しい場合には、職員が発見箇所へ赴き、駆除・捕獲等の対応を行います。その後、保健所へ報告し、特定外来生物であると判断された場合、発見箇所周辺住民への注意喚起を行い、場合によっては現場の定期的な見回り等を実施します。

人的負担軽減策については、特定外来生物についての情報掲載を強化し、発見者による特定外来生物か否かの判断精度をあげることで、誤報による対応件数を減らす、といった対策を思案しております。

⇒【再質問・意見】

今年度は発見・対応はありましたか。

⇒【再質問・意見に対する回答】

令和5年度は2件のセアカゴケグモの発見報告がありました。うち1件は保育所の敷地内での発見であったため、園児の安全のため、発見から活動終期である10月末までの期間において、市職員が防除作業を行いました。

●質問(4)_P3『廃食用油回収事業』

廃食用油回収事業の推進について、回収量の一層の増加のため、今後どのような広報活動を行う予定ですか。

⇒【回答】

現在行っている、市報や市HPへの情報掲載による周知に加え、環境啓発イベントやワークショップ等での紹介や資料配付を行うことで、本事業について広く知ってもらい、回収量増加を図ろうと考えております。

⇒【再質問・意見】

年代によっては、市報やHPを見る機会があまりない市民は多いと思うので、イベントやワークショップ等で周知を行うのは良いと思います。人によって情報に触れやすい環境は異なると思うので、SNS含め多様な手段で発信することで、より多くの人に情報を伝えることができると思います。

●質問(5)_P4『花いっぱい活動』

花いっぱい活動の推進について、活動の広報活動が不足しているとありますが、今現在はどのような活動を行っていますか。

⇒【回答】

現在は、不定期ではありますが本市の花いっぱい運動の活動内容を市報と市のHPへ掲載し、広報活動を行っています。

また、福岡市の【一人一花運動】を参考に、活動の象徴となるロゴとステッカーを新規作成し、令和6年4月から参画団体へ配布する予定としています。

●質問(6)_P6『ペットボトルキャップ回収事業の促進』

スーパー等に以前置いてあったペットボトルキャップの回収箱が最近なくなっていますが、回収が行われなくなっている原因がわかれば教えてください。また、ペットボトル回収箱を設置している店舗にキャップ回収箱を併設するようお願いしてはどうか。ペットボトルをリサイクルに出している人からすれば、併設されていればありがたいし、効果は高いと思います。

⇒【回答】

市内のスーパー等で実施されているペットボトルキャップの収集につきましては、市の収集事業とは別で各自実施されている事業ですので、把握できておりません。

ご意見いただいている通り、効果が期待できるのではないかとと思われるため、今後は市報や市ホームページ等での周知の強化を行うほか、ペットボトルキャップの収集に取り組んでおらず、本事業に賛同いただける施設に対し、回収協力依頼を行うよう検討したいと思います。

⇒【再質問・意見】

商業施設に設置してあれば、買い物に行ったついでに出せるので回収がしやすいと思います。回収したペットボトルキャップはどういったものにリサイクルされているのでしょうか。

⇒【再質問・意見に対する回答】

株式会社プラテクノマテリアルと協定を締結しており、回収量に応じて、園芸用プランターや受け皿、定規、学校机用の引き出し等にリサイクルしております。回収したキャップは計量し、希望する回収団体には、回収量に応じて前述のリサイクル商品を成果品としてお渡し、それ以外の回収分は、市で把握しておき、学校等の回収団体に成果品をプラスしてお渡ししております。

⇒【再意見】

ペットボトルキャップがどのくらいの量で何に生まれ変わっているか、見える化することで、子どもたちの回収意識がより高まるのではないかと思います。幼いころからこういった活動に関わることで、子どもたちのリサイクル意識がつくので良い取り組みだと思います。

●質問(7)_P7『再生可能エネルギー導入目標の策定』

①温室効果ガス排出量を 2030 年までに 46%削減という目標を掲げていますが、現在どのくらいの数値なのか教えてください。

②今回、再エネ導入のために策定されたものを、環境基本計画に反映させるために私たちで審議するというのですが、いつもの定例会議のほかに、反映作業として、何回くらい審議会を開催することになりそうですか。

⇒【回答】

①現在の最新の数値が令和 2 年度のものとなりますが、削減率は 2013 年と比較し、24.0%となっております。

②現時点での予定にはなりますが、来年度は定例会議を含め、5 月、7 月、12 月、3 月の計 4 回を予定しております。(もしかしたらもう一回増えるかもしれません。) ご審議いただく内容・回数共に多いですが、ご協力の程よろしく願いいたします。なお、内容と大まかなスケジュールについては、後ほどご説明させていただこうと考えております。

●質問(8)_P7『地産地消の推進』

事務事業内容に、飯塚市地産地消推進協議会へ補助金を交付し…とありますが、こういった補助金なのか教えてください。また、差し支えないならば、どこに幾ら交付されたのか教えてください。

⇒【回答】

飯塚市地産地消推進協議会において行われる、地産地消の推進に関する事業に対して、市として協議会の事務局を担うとともに、負担金を支出しています。

令和 5 年度については、飯塚市地産地消推進協議会に対して 177,000 円の補助金交付を行い、小学 5 年生を対象として、市内小学校 4 校で、農業体験(水稻生産(水田で栽培))の実施や、給食やイベントへの地産物の提供を行いました。

●質問(9)_その他(個別事業以外)

環境基本計画の主軸となっている環境整備課と、事業を実施している担当課が異なる事業が多くみられますが、環境整備課とその他の事業実施課はどのような体制(連携)で事業の実施や情報交換・共有等を行っているのですか。目標設定や進捗状況の管理は、環境整備課が他課の事業に助言等を行いながら進めているのでしょうか。

⇒【回答】

環境基本計画に紐づけられた対象事業については、毎年、環境整備課から関係課に対し調査を行い、事業の実施状況や進捗状況の把握を行っています。その集計し、まとめたものが、議題(1)(2)の資料となります。そして、当審議会の中で審議を行い、いただいた質問やご意見を関係課に共有し、環境保全に向けたより効果的な事業となるよう助言等を行っています。

議題(3)その他

●連絡事項

来年度の環境審議会の予定について、一点ご連絡させていただきます。配布しております資料「令和6年度業務工程表」をご覧ください。実施項目の一つ目“①審議会”に示しておりますとおり、来年度は5月、7月、12月、3月の計4回を予定しております。定例の審議会に加え、今年度策定しました再生可能エネルギー導入目標に関する開催を予定しております。前回の審議会でも説明させていただきましたが、今一度ご説明いたしますと、地球温暖化の要因となっている温室効果ガスの排出量について、「2030年度において46%削減、2050年度において実質ゼロ」を実現させるために必要な、再生可能エネルギーの導入目標を今年度策定しました。策定にあたっては、本審議会の委員でもあられます、近畿大学産業理工学部の依田先生、堀先生に関わっていただきました。

その導入目標について、環境基本計画に反映させるため、飯塚市環境基本条例第8条第3項及び第5項に基づき、本審議会にてご審議いただくものです。

大まかな流れとしましては、まず5月に、今年度策定した目標の報告を行います。本市における現状や具体的な目標の説明を行い、今後どうしていくべきかといった内容でご審議いただきます。続いて、先ほどの第1回審議会を経て作成した、環境基本計画の改訂素案の審議を、定例の議題と併せて7月に行います。その後、10～11月に市民意見公募（パブリックコメント）を実施し、その結果報告と改訂の最終案の提案を12月に行う予定です。この12月の審議会において、本審議会からのご答申をいただき、庁内での最終報告を行ったのち印刷・製本し、完成となる見込みです。完成した冊子については、3月の定例審議会の際にお配りする予定としております。

来年度は審議内容・開催回数が多く、ご協力いただく機会が多いかと思いますが、お力添えの程よろしく願いいたします。

3 閉会

会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題(1)(2)資料_第3次飯塚市環境基本計画に基づく事務事業一覧 ・ 議題(1)(2)補足資料_事務事業 No. 324-1_補足資料 ・ 議題(3)令和6年度業務工程表
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 1 公開 2 一部公開 3 非公開
その他	

基本目標	施策方針	取組の方向性	事務事業No. (報告用)	事務事業名 (報告用)	担当課	事務事業内容	指標			令和5年度成果(令和6年1月末時点)	令和5年度課題(令和6年1月末時点)	
							指標名称【単位】	目標値及び実績値				
基本目標1 豊かな自然と人が共生する環境をつくる	森林や水源の保全	適正な森林整備による水源涵養機能、二酸化炭素吸収機能の維持・向上	111-1	荒廃森林の整備	農林振興課	平成30年度から令和9年度までの10カ年で公益的機能が発揮できなくなる恐れのある人工林で間伐等を実施し、公益的機能を長期的に発揮できる森林を目指すために福岡県森林環境税基金からの交付金(交付率10/10)を活用し実施するもの。	荒廃森林整備面積【ha】(単年度)	令和4年度目標値 174	令和5年度目標値 121	令和6年度目標値 75	計画に基づき、整備を実施することができた。	発注時期が遅くなったため、委託業者が説明会を開催できる回数が減り、事業について所有者の理解および同意を得にくくなっている。
								令和4年度実績値 130.12	令和5年度実績値(1月末時点) 109.84			
							荒廃森林特定調査面積【ha】	令和4年度目標値 460	令和5年度目標値 313	令和6年度目標値 105.2		
								令和4年度実績値 453	令和5年度実績値(1月末時点) 313.19			
			計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度						
			事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	縮小	縮小						
						次年度以降の改善策	早期発注を行い調査・整備期間を確保する。要整備森林について確実に所有者の同意を得られるように委託業者と連携して所有者への事業説明を行う。					
			111-2	森林・山村多面的機能発揮対策交付金の交付	農林振興課	森林の有する多面的機能を発揮するため、地域住民等による里山林保全・竹林整備及び森林資源利用・森林機能強化等の共同活動への支援のため交付金を交付する。	保全された森林面積【ha】	令和4年度目標値 24.1	令和5年度目標値 12.9	令和6年度目標値 10	交付金申請者がいなかった。	既存の団体は3年間の補助期間が経過してしまい、新規団体の設立がなかったため、交付対象組織が存在しなくなった。1件本補助金について活用を検討している組織があるため、支援を行う必要がある。
							令和4年度実績値 0.3	令和5年度実績値(1月末時点) 0				
		活動組織【組織】					令和4年度目標値 4	令和5年度目標値 1	令和6年度目標値 1			
							令和4年度実績値 1	令和5年度実績値(1月末時点) 0				
		計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度							
事業の方向性(維持・拡充・縮小)	拡充	拡充	拡充									
				次年度以降の改善策	新規団体の設立支援。							
里山の保全	112-1	竹粉砕機の貸出による放置竹林伐採の促進	農林振興課	従来の施策では対応が追いつかないために里山の荒廃や放置竹林面積の増加等といった地域課題がある。その解決のために森林整備基金を活用し、竹粉砕機を導入し、市民団体や市民の方々へ貸し出し、活動支援を行うことで里山林保全や竹林整備につなげようとするもの。	竹林伐採面積【ha】	令和4年度目標値 1.8	令和5年度目標値 2.4	令和6年度目標値 1.5	1月末までに4回の操作説明会を開催することができた。	想定していたほど、貸出し回数が伸びなかった。		
						令和4年度実績値 2.3960	令和5年度実績値(1月末時点) 0.0115					
					竹粉砕機貸出日数【日】	令和4年度目標値 300	令和5年度目標値 336	令和6年度目標値 144				
						令和4年度実績値 103	令和5年度実績値(1月末時点) 13					
					計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度				
					事業の方向性(維持・拡充・縮小)	拡充	拡充	拡充				
				次年度以降の改善策	制度を広く周知する必要がある。							
保安林の整備による自然災害の防災・減災	113-1	市有保安林の整備	農林振興課	市有保安林が水源涵養、災害防止等の指定されている目的を果たしているように適切な維持管理を行う。	生活環境保全林管理【ha】	令和4年度目標値 4	令和5年度目標値 4	令和6年度目標値 4	生活環境保全林内の整備が必要な遊歩道を把握した。	今後、生活環境保全林としての機能を適切に発揮できるように計画に基づいて整備を進める必要がある。		
						令和4年度実績値 3.11	令和5年度実績値(1月末時点) 2					
					計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度				
					事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持				
				次年度以降の改善策	計画に基づいた整備を行う。							

基本目標	施策方針	取組の方向性	事務事業No. (報告用)	事務事業名 (報告用)	担当課	事務事業内容	指標			令和5年度成果(令和6年1月末時点)	令和5年度課題(令和6年1月末時点)	
							指標名称【単位】	目標値及び実績値				
基本目標Ⅰ 豊かな自然と人が共生する環境をつくる	生物多様性の保全	希少動植物・在来種の保護・保全	1 2 1 - 1	希少動植物・在来種に関する情報発信	環境整備課	市報等の媒体により、保護・保全すべき希少動植物、在来種の情報発信を行う。 また、自然体験プログラムを開催し、参加者の動植物を保全する意識の醸成を図る。	市報(環境コラム)における外来生物に関する情報発信【回】	令和4年度目標値 1	令和5年度目標値 1	令和6年度目標値 1	市報における希少動植物についての情報発信は行えなかったが、市ホームページにおいて外来カミキリムシ類の農地、森林等の樹木への加害による自然景観や生態系への悪影響について掲載することで、生態系の保全についての情報掲載を行った。 また、1月末時点において、自然体験プログラムを16回開催しており、延べ150名の参加者に対して、生態系保全に関する啓発を行った。	市報掲載料は2か月に1回、1/2頁分の予算計上であり、発信する情報の選別が要される。
							令和4年度実績値 令和5年度実績値(1月末時点)	1	0			
							自然体験プログラム参加者数【人】	令和4年度目標値 300	令和5年度目標値 290	令和6年度目標値 220		
							令和4年度実績値 令和5年度実績値(1月末時点)	211	150			
		計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策						
		事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	市報掲載等による更なる情報発信						
		外来生物の拡大防止	1 2 2 - 1	外来生物に関する情報発信	環境整備課	市報、市ホームページ等の媒体の活用により、外来生物に関する情報発信を行い、外来生物を発見した際の適切な対応の周知に努め、拡大の防止を図る。 また、自然体験プログラムを開催し、参加者の生態系に関する知識や保全意識の醸成を図る。	市報(環境コラム)における外来生物に関する情報発信【回】	令和4年度目標値 1	令和5年度目標値 1	令和6年度目標値 1	市報における外来生物に関する情報発信は行えなかったが、市ホームページにおいて、外来カミキリムシ類についての注意喚起を新規掲載を行ったほか、セアカゴケグモやツマアカスズメバチ等の外来生物についての情報掲載を継続して行うことができた。 また、1月末時点において、自然体験プログラムを16回開催しており、延べ150名の参加者に対して、生態系保全に関する啓発を行った。	特定外来生物の発見報告を受けた際の、現地確認・同定作業等にかかる人件費負担が大きいことが課題となる。
							令和4年度実績値 令和5年度実績値(1月末時点)	1	0			
							自然体験プログラム参加者数【人】	令和4年度目標値 300	令和5年度目標値 290	令和6年度目標値 220		
							令和4年度実績値 令和5年度実績値(1月末時点)	211	150			
		計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策						
		事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	市報掲載等による更なる情報発信、発見報告を受けた際の対応方法の見直し						
自然とふれあえる場の創出・確保	1 2 3 - 1	自然観察会の開催	環境整備課	主に小学生とその親世代を対象とした自然体験プログラム「いいねん！」を開催し、広く市民に自然と触れ合う機会の提供を行う。	自然体験プログラム開催数【回】	令和4年度目標値 22	令和5年度目標値 22	令和6年度目標値 22	1月末時点において、自然体験プログラム「いいねん！」を計16回開催し、150名の市民が参加した。 自然と触れ合う貴重な機会として子どもたちが楽しんで参加している。 次年度では、謝礼金の見直しを予定している。	自然体験プログラムにおいて現地指導(昆虫の捕獲、動植物の解説等)を行う講師は、開催前の現地確認、観察会ルートの設定、当日資料の作成など、当日の現地指導以外の事前準備に多くの時間を費やしており、講師謝礼金に対し、負担が過大となっている。		
					令和4年度実績値 令和5年度実績値(1月末時点)	20	16					
					自然体験プログラム参加者数【人】	令和4年度目標値 300	令和5年度目標値 290	令和6年度目標値 220				
					令和4年度実績値 令和5年度実績値(1月末時点)	211	150					
計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策								
事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	イベント周知の強化								
自然とふれあえる場の創出・確保	1 2 3 - 2	水生生物観察会等による自然と触れ合う機会提供	環境整備課	エコ工房において、水生生物観察会やバードウォッチング等を開催し、参加者に自然と触れ合う機会の提供を行う。	関連講座の開催回数【回】	令和4年度目標値 3	令和5年度目標値 3	令和6年度目標値 3	エコ工房が実施する環境教室の一環として、水生生物観察会を2回実施した。 バードウォッチングについては、参加希望者が集まらず、実施できていない。	特に水生生物観察会の実施にあたっては、開催にあたって河川の水量も考慮する必要があり、開催前日も含めた天候の影響を受けやすい。		
					令和4年度実績値 令和5年度実績値(1月末時点)	2	2					
					関連講座の参加人数【人】	令和4年度目標値 60	令和5年度目標値 60	令和6年度目標値 60				
					令和4年度実績値 令和5年度実績値(1月末時点)	26	20					
計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策								
事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	開催可否を天候に左右されない屋内での生物観察教室等の開催検討等								

基本目標	施策方針	取組の方向性	事務事業No. (報告用)	事務事業名 (報告用)	担当課	事務事業内容	指標				令和5年度成果(令和6年1月末時点)	令和5年度課題(令和6年1月末時点)
							指標名称【単位】	目標値及び実績値				
基本目標Ⅱ うるおいのある快適な生活環境をつくる	河川などの水質改善	汚水処理人口普及率の向上	211-1	公共下水道の整備	下水道課	市民の快適で衛生的な生活環境の整備と、公共用水域の水質を保全するため、公共下水道と合併浄化槽の普及促進により汚水処理を行っている。このうち公共下水道での整備を行う事業計画区域について、未整備区域の状況調査を行い、調査結果により一定の条件に合致する区域を除外する計画を、令和4年度に策定した。当該区域については公共下水道整備を一旦、休止し合併浄化槽での汚水処理を普及するものとする。今後は公共下水道と合併浄化槽での一体的な汚水処理の効率化を図る。	整備面積【ha】	令和4年度目標値 1,869	令和5年度目標値 1,608	令和6年度目標値 1,608	事業計画面積1,608haのうち1,583.7haの整備が完了し、約5.3万人の市民が公共下水道を利用している状況であり、事業の目的である市民の快適で衛生的な生活環境の整備と公共用水域の水質保全に寄与しているものとする。	公共下水道事業計画区域の変更により公共下水道を整備する区域には、速やかに周知を行い、令和9年度の整備完了を目指す。
								令和4年度実績値 1577.5	令和5年度実績値(1月末時点) 1583.7			
							計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	次年度以降の改善策 ・開発区域等を事前に把握し事業者と企業局での整備範囲を協議する。協議によりいずれの施工範囲も負担が少なくなるよう設計協議を行う。また要望の多い箇所を抽出し、計画的・効率的な箇所から整備を実施する。 ・今後の全体計画区域及び事業計画区域の変更については、水洗化意向調査等を行い、費用対効果の高いところから整備を進める。					
		211-2	浄化槽設置整備事業補助金の交付	企業管理課	生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止し、良好な生活環境を保全するため、住宅用小型合併処理浄化槽の設置に対し、補助金を交付するもの。	浄化槽設置基数【基】	令和4年度目標値 220	令和5年度目標値 218	令和6年度目標値 218	浄化槽設置基数及び普及率についても、微増であるものの増加が見込まれる。また、市内河川水質についても、7.69%増加し水質改善が図られたと考えられる。引き続き水質汚濁の防止に向け、合併処理浄化槽の普及に努める。 ※普及率はR6.3月末時点の見込み数値を記載	令和5年度より、下水道整備計画区域の見直しに伴い整備区域から除外された区域に対する補助金額の増額を行ったが、効果があまり得られなかったため、補助金額等について再度検証・検討する必要がある。	
							令和4年度実績値 214	令和5年度実績値(1月末時点) 214				
						計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			
			事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	更なる補助制度の周知、並びに補助対象、補助額等についての検討が必要である。					
		211-3	公共下水道の水洗化促進	企業管理課	個人が自宅の排水設備(水洗化)工事を行うにあたり、経済的負担を軽減させる制度を運用し、公共下水道の水洗化率の向上を図り河川の水質を向上させる。	公共下水道の水洗化率※水洗化人口/処理区域内人口【%】	令和4年度目標値 100	令和5年度目標値 100	令和6年度目標値 100	水洗便所等改造費補助金 25件、水洗化率向上 0.67ポイント	水洗便所等改造費補助金制度について、近年の工事費高騰を踏まえ、補助金額の拡大等についての検討が必要である。	
						令和4年度実績値 90.48	令和5年度実績値(1月末時点) 91.15					
	計画年度					令和6年度	令和7年度	令和8年度				
		事業の方向性(維持・拡充・縮小)	拡充	拡充	拡充	引き続き制度の周知を行うとともに、水洗便所等改造費補助金制度については、近年の工事費高騰を踏まえ、補助金額の拡大等についての検討が必要である。						
水質の監視、水質改善の啓発活動の推進	212-1	下水道施設における放流水質の管理	下水道課	下水道施設(ポンプ場・処理場)に対し、適切な維持管理を実施することにより、施設の能力を最大限に発揮し、安定的で良好な放流水質を確保する。	放流水の目標値に対する達成度※目標値(10ppm)/放流水の年間平均BOD値×100【%】	令和4年度目標値 100	令和5年度目標値 100	令和6年度目標値 100	公共用水域の水質保全を図るため、放流水のBOD平均値の目標値を10ppmに設定しているが、適切な維持管理を行うことで、今年度は1.82ppmと目標値を十分に下回ることができた。この水準を維持していくことで、突発的な事故が起きても排水基準である20ppm以内に抑えることができる。	生物処理の性質上、流入水の水温低下や降水時の極端な水温変動、流入量の負荷変動に対し、水質が大きく影響されるため、運転方法を細かく制御し、放流水水質の安定化を図る必要がある。		
						令和4年度実績値 211.4	令和5年度実績値(1月末時点) 549.5					
					計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度				
		事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	水温低下や降水等の負荷変動に対して、引抜汚泥量、返送汚泥量、滞留時間等の運転調整を細かく行い、放流水水質の変動を最小限に抑える。						
	212-2	廃食用油回収事業の推進	環境整備課	家庭排水による河川の水質汚濁防止活動の一環として、市役所・各支所・交流センター等に廃食用油回収ボックスを設置し、各家庭から出る廃食用油の回収事業を実施する。回収した廃食用油は、塗料等にリサイクルされる。	廃食用油回収量【kg】	令和4年度目標値 5,000	令和5年度目標値 5,000	令和6年度目標値 3,696	市報、市ホームページにおける情報掲載のほか、環境出前講座や福岡県主催の環境セミナーなどのイベントの際にも廃食用油回収事業の紹介を行った。	回収量の増加を図るための広報活動の拡張が必要となる。		
						令和4年度実績値 3,660	令和5年度実績値(1月末時点) 3,050					
					計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度				
		事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	事業周知の強化						
	212-3	遠賀川水系における水質の監視	環境整備課	遠賀川水系の水質検査を39地点(令和3年度)にて実施し、水質の監視に努める。	水質検査実施箇所数【箇所】	令和4年度目標値 39	令和5年度目標値 39	令和6年度目標値 39	遠賀川水系の水質検査(39地点)を年2回(9月、2月)実施した。	9月検査で一か所、大腸菌数の基準を超える地区があった(R4年度とは別の箇所)。継続して注視していく。		
					令和4年度実績値 39	令和5年度実績値(1月末時点) 39						
水質検査における環境基準達成率【%】※BOD達成箇所/水質検査実施箇所					令和4年度目標値 100	令和5年度目標値 85	令和6年度目標値 85					
					令和4年度実績値 94	令和5年度実績値(1月末時点) 90						
計画年度					令和6年度	令和7年度	令和8年度					
	事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	継続して行っていく。							
					次年度以降の改善策							

基本目標	施策方針	取組の方向性	事務事業No. (報告用)	事務事業名 (報告用)	担当課	事務事業内容	指標				令和5年度成果(令和6年1月末時点)	令和5年度課題(令和6年1月末時点)	
							指標名称【単位】	目標値及び実績値					
基本目標Ⅱ うるおいのある快適な生活環境をつくる	環境美化活動の推進	まちなか美化活動の推進(花いっぱい運動、一斉清掃)	221-1	屋外広告物の除却による景観保全	都市計画課	屋外広告物を正しく表示するルールを定めることにより、良好な景観の形成を図ることを目的とし、屋外広告物の掲出許可及び違法広告物の除却等を実施する事業である。なお、本事業は福岡県屋外広告物条例に基づいており、平成12年度より県から市町村への権限移譲となっている。	適切に管理されていない違法屋外広告物の除却枚数【枚】	令和4年度目標値 400	令和5年度目標値 400	令和6年度目標値 300	市報掲載及び市HP記載内容の更新、事業者等への制度説明などの啓発活動を実施した。また、違法な掲出をしている業者に対しては改善の指導を行った。違法屋外広告物の件数は減少傾向にあり、違法広告についての認識が根付きつつある。	減少傾向ではあるが依然として違法屋外広告物の掲出が続いているため、啓発活動等の継続を図る。	
							令和4年度実績値 286	令和5年度実績値(1月末時点) 244					
							計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策
							事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持			違法屋外広告物の件数が減少傾向であることから除却回数を減らしつつも、作業内容の見直しにより除却件数の維持・向上をはかる。
			221-2	花いっぱい活動の推進	都市計画課	花を通じた各種事業の展開により明るい郷土とすることを主目的とし、併せて景観の向上や地域コミュニティの形成を図る。	協議会会員数【人】	令和4年度目標値 174	令和5年度目標値 172	令和6年度目標値 174	<ul style="list-style-type: none"> ■花苗の品種・数量について昨年度より拡大。 ■年2回開催の花壇コンクール参加団体も令和4年度より増加。 ■本活動の象徴となるロゴを作成。 ■会員に対し、Gooday店舗で割引が受けられる特典を開設。 	<ul style="list-style-type: none"> ■活動の広報活動が不足 ■活動を拡大するための人員・資金の不足 	
							令和4年度実績値 172	令和5年度実績値(1月末時点) 174					
							計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策
							事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持			令和5年度に実施した内容を継続し、会員の満足度の向上を図る。また、市報や其他媒体などを活用し花いっぱい運動の活動の広報が必要。
			221-3	ごみネット購入費補助金の交付	環境整備課	市民がごみネットを購入する際に、その費用の一部に対して補助金を交付することにより、地域のごみ集積所のごみの散乱を防止、住環境の美化に努め、地域の環境保全に寄与する。	補助金を利用し、ごみネットを購入した枚数【枚】	令和4年度目標値 25	令和5年度目標値 34	令和6年度目標値 26	市報にてごみネット等購入費補助金の周知を行ったが、昨年ほどの申請件数を得ることはできなかった。	申請件数を増加させるための方策が必要となる。	
							令和4年度実績値 35	令和5年度実績値(1月末時点) 20					
							計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策
							事業の方向性(維持・拡充・縮小)	拡充	拡充	拡充			事業周知の強化
221-4	ボランティア袋の交付	環境整備課	飯塚市内の公共の道路その他公共の場所の清掃を行うためのボランティア袋を交付し、市民によるボランティア清掃活動を促進する。	ボランティア袋配付枚数【枚】	令和4年度目標値 5,000	令和5年度目標値 6,000	令和6年度目標値 7,000	地域環境の保全と美化のため、1月末時点において、合計6,465枚のボランティア清掃ごみ袋を申請者へ配付し、5,173人がボランティア清掃を行った結果、清潔で快適な地域環境の維持に寄与した。	ボランティア清掃活動の実施が活発でない地域への環境美化活動事業の紹介や、ボランティア清掃への新規参加者の獲得のため、この事業の更なる周知を行う必要がある。				
				令和4年度実績値 6,653	令和5年度実績値(1月末時点) 6,465								
				清掃実施回数(申請数)【回】	令和4年度目標値 150	令和5年度目標値 180	令和6年度目標値 180						
				令和4年度実績値 187	令和5年度実績値(1月末時点) 150								
計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策									
事業の方向性(維持・拡充・縮小)	拡充	拡充	拡充	当事業や市職員一斉清掃に関する情報周知の実施									
222-1	生活環境の保全に関する条例に基づく指導	環境整備課	環境問題に関するさまざまな苦情に対し、現地調査等を行い、関係者に対し改善指導等を行うもの。	苦情処理件数【件】	令和4年度目標値 351	令和5年度目標値 305	令和6年度目標値 328	近年は苦情内容が煩雑化しているが、個々の苦情の解決を図ることで、環境保全意識の向上に一定の成果を上げている。	条例施行後、住民等からの苦情の申し出については、関係課及び関係機関と連携を語り対応しているが、原因者が特定できない事例等の対応について検討する必要がある。また、これまでと同様に苦情に対し速やかに現場を確認し、適切な指導を行うとともに、環境に関する啓発を行い、さらに市民の環境保全意識の向上を図る必要がある。				
				令和4年度実績値 230	令和5年度実績値(1月末時点) 222								
				計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策			
				事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持			啓発を継続的に行う。			
222-2	地域猫活動の促進による糞害被害の防止	環境整備課	地域猫活動に取り組む住民等で組織される団体を支援することにより、飼い主のいない猫の適正管理を推進し、もって猫に起因する生活環境被害の軽減及び猫の引取数の減少を図る。	手術券を活用し手術した頭数【頭】	令和4年度目標値 10	令和5年度目標値 22	令和6年度目標値 25	昨年度団体登録を行った1団体が今年度から手術券を利用した不妊去勢手術を実施し、2団体で計25匹の不妊去勢手術を実施し、目標を達成した。	昨年度登録団体が1団体増加したものの、活動区域が限られているため、市内全域で本事業の目的を達成するに至っていない。地域猫活動の認知度が依然として低いことが課題であり、多様な手段で地域猫活動の周知を行うことが必要である。				
				令和4年度実績値 9	令和5年度実績値(1月末時点) 25								
				計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策			
				事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持			新規団体の活動を推進するために、市報やホームページ、SNS等の多様な手段で地域猫活動の周知を図り、地域猫活動の認知度を向上させる。			

基本目標	施策方針	取組の方向性	事務事業No. (報告用)	事務事業名 (報告用)	担当課	事務事業内容	指標			令和5年度成果(令和6年1月末時点)	令和5年度課題(令和6年1月末時点)			
							指標名称【単位】	目標値及び実績値						
基本目標Ⅱ うるおいのある快適な生活環境をつくる	環境美化活動の推進	不法投棄の防止	2 2 3 - 1	環境パトロール等の実施	環境対策課	市民の清潔な生活環境保持のため、 ・環境パトロールの実施や不法投棄物の回収および監視カメラ、看板等の設置作業 ・依頼を受けた各課所管の市有地の草刈りや回収、側溝・樹木等の消毒作業 を行う。	パトロール日数(飯塚地区)【日】	令和4年度目標値 240	令和5年度目標値 240	令和6年度目標値 240	環境パトロールの実施により不法投棄の把握・回収は継続して行っている。公衆衛生を保ち良好な生活環境が得られるようパトロールを行い、不法投棄に関する啓発・指導・監視の継続に力を入れていきたい。	市有地・私有地における不法投棄は後を絶たない状況が継続している。不法投棄をされないような土地管理の推進を図る改善策を検討する必要がある。		
								令和4年度実績値 201	令和5年度実績値(1月末時点) 204					
							パトロール日数(頸田、庄内、穂波、筑穂地区)【回】	令和4年度目標値 340	令和5年度目標値 340	令和6年度目標値 340				
								令和4年度実績値 283	令和5年度実績値(1月末時点) 287					
							監視カメラ、看板の設置数【件】	令和4年度目標値 30	令和5年度目標値 30	令和6年度目標値 30				
								令和4年度実績値 8	令和5年度実績値(1月末時点) 12					
	計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策									
	事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	・環境パトロールにおける強化月間を拡充するなど、不法投棄監視の充実を図る。 ・土地所有者(所管課)に対する環境美化啓発の推進を図る。 ・適正な廃棄物処理に従わない悪質な事例に関しては、警察との連携強化を図る。									
	公害対策の徹底	騒音、振動、悪臭など公害の監視・指導の徹底	2 3 1 - 1	事業活動等の監視による公害の防止	環境整備課	本事業は、騒音・振動・悪臭・大気汚染・水質汚濁などの公害対策を実施することにより、市民の安全で健康的な生活環境を保全することを目的としている。	特定施設の設置及び特定建設作業の実施の届出の審査件数【件】	令和4年度目標値 49	令和5年度目標値 47	令和6年度目標値 50	遠賀川水系の水質検査(39地点)を年2回(9月、2月)実施した他、特定施設の設置及び特定建設作業の実施届出の審査を44件実施した。以上により、公害発生源の監視を行っている。	市内で事業活動を行っている各企業と協議を行い、協定締結を進めていく必要がある。		
								令和4年度実績値 56	令和5年度実績値(1月末時点) 44					
水質検査実施箇所数【箇所】							令和4年度目標値 39	令和5年度目標値 39	令和6年度目標値 39					
							令和4年度実績値 39	令和5年度実績値(1月末時点) 39						
計画年度							令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策				
事業の方向性(維持・拡充・縮小)							維持	維持	維持	・市内で事業活動を行っている各企業と協議を行い、協定締結を進めていく。 ・市内工業団地周辺の騒音・振動・悪臭・大気汚染・水質汚濁に関する現状を把握する必要がある。数年周期で工業団地ごとの測定計画を立案する必要がある。				

基本目標	施策方針	取組の方向性	事務事業No. (報告用)	事務事業名 (報告用)	担当課	事務事業内容	指標			令和5年度成果(令和6年1月末時点)	令和5年度課題(令和6年1月末時点)								
							指標名称【単位】	目標値及び実績値											
基本目標Ⅲ 循環型社会・脱炭素社会を実現する	4R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進	ごみ発生の抑制(断る、減らす)	311-1	ペーパーレス化の推進	業務改善・DX推進課	庁内で実施される研修や会議において、ペーパーレス化を推進することで、職員の業務負担の軽減、印刷にかかるコストの削減等の効果が見込まれるため、ペーパーレス化の周知及び啓発に加え、環境の整備を行うもの。	ペーパーレス会議・研修の実施回数【回】	令和4年度目標値 25	令和5年度目標値 100	令和6年度目標値 200	各種会議や研修において、ペーパーレス化を全庁的に推進するため、庁内周知を行った。また、推進する取り組みとして、モバイルプロジェクターの庁内貸出を行った。	庁内でのペーパーレス会議は年々進んでいるものの、まだ紙対応の会議が多数あり、更に推進させていく必要がある。課題として「デスクトップパソコンのためペーパーレス会議・打ち合わせがしにくい」「パソコンの貸出回数に限りがある」「ペーパーレス化に対する意識醸成ができていない」等が挙げられる。また、ペーパーレス会議・研修の実施回数の把握については、対象の会議・研修を明確化し、どの範囲まで集計するのかの定義の再設定が必要である。							
								令和4年度実績値 179	令和5年度実績値(1月末時点) 584										
							計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策						
				事業の方向性(維持・拡充・縮小)	拡充	拡充	拡充	ペーパーレス会議の方針の策定を行い、全庁的な推進を目指す。実施の把握方法の再検討を行う必要がある。											
			311-2	生ごみ処理機に関する普及・啓発	環境整備課	エコ工場の協力のもと、生ごみ処理機の作成教室を開催し、各世帯における生ごみ処理機の普及を図り、ごみ発生量の削減に努める。	生ごみ処理機作成教室開催数【回】	令和4年度目標値 7	令和5年度目標値 7	令和6年度目標値 7	1月末時点で生ごみ処理機作成教室を4回開催し、27名の参加者を得られた。希望者の多くが女性や年配であることをふまえ、今年度からは生ごみ処理機を既に完成させたものを配布する方法を試みている。	昨年度に対し、希望者数が伸び悩んでいることを踏まえ、作成教室から配付会への変更やエコ工房通信や市報等による更なる情報掲載を検討する必要がある。							
								令和4年度実績値 7	令和5年度実績値(1月末時点) 4										
		計画年度					令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策									
			事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	事業周知方法の強化・検討												
		再利用・再資源化の促進	4R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進	312-1	資源回収団体奨励補助金の交付	環境整備課	ごみの減量化及び資源化を推進するとともに、市民の環境保全に対する意識の高揚を図るため、事前に登録した資源回収団体に対し回収量に応じた補助金を交付するもの。	資源回収団体の新規登録数【団体】	令和4年度目標値 6	令和5年度目標値 6	令和6年度目標値 6	2年以上活動を行っていない9団体へ活動再開依頼を実施し、1団体が活動を再開。また、市報、ホームページ、SNS等による広報の結果、新たに5団体の新規団体登録を受け、資源回収活動を促進することができた。新型コロナウイルス感染症の5類型移行に伴い資源回収活動を再開する団体が増加傾向にあることも含めて、補助金額も増加傾向にあり、R6.1月末時点で、前年度比3%増となっている。新規登録、活動地域内での回収率増を促進するとともに、活動していない団体に対し、活動再開を促していく。	更なるごみの減量化(資源化)率向上を図るには、活動団体数の増加及び活動団体の活動地域内での回収率増を要するため、広報活動の強化により2年以上活動を行っていない9団体へ活動再開依頼を実施し、1団体が活動を再開した。また、市報、ホームページ、SNS等による広報の結果、新たに5団体の新規団体登録を受け、資源回収活動を促進することができた。新型コロナウイルス感染症の5類型移行に伴い資源回収活動を再開する団体が増加傾向にあることも含めて、補助金額も増加傾向にあり、R6.1月末時点で、前年度比3%増となっている。新規登録、活動地域内での回収率増を促進するとともに、活動していない団体に対し、活動再開を促していく。						
									令和4年度実績値 6	令和5年度実績値(1月末時点) 5									
								計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策					
									事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持			維持	ゴミの減量化(資源化)率の更なる向上を図るため、広報活動を行う他、2年以上活動していない団体に対し、活動再開の依頼を呼びかける。				
								312-2	ペットボトルキャップ回収事業の促進	環境整備課	限りある資源を循環させるごみゼロの社会づくりを目標に循環型社会を推進する取組として、市民、小中学校、企業等の協力によりペットボトルキャップを回収し、ごみの減量化を図り、再生プラスチック製品(プランター、定規等)に再利用する。			ペットボトルキャップ回収箇所【箇所】	令和4年度目標値 30	令和5年度目標値 60	令和6年度目標値 35	市報や市ホームページにて情報掲載を行い、事業の周知・啓発を行った結果、一定量のペットボトルキャップを回収できた。	本事業の更なる推進のために情報掲載方法の拡充を行う必要がある。
															令和4年度実績値 36	令和5年度実績値(1月末時点) 29			
				計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度					次年度以降の改善策							
					事業の方向性(維持・拡充・縮小)	拡充	拡充	拡充	事業周知の強化										
				312-3	フリーマーケット等の開催による再利用(リユース)の促進	環境整備課	エコ工場まつりにおいて、フリーマーケットを開催するほか、定期的に子ども服交換会等の再利用を促進する事業を実施する。	エコ工場まつりへの来客数【人】	令和4年度目標値 700	令和5年度目標値 700	令和6年度目標値 700	今年度エコ工場まつりにおいては、コロナ禍では規制していた飲食物の販売等を実施し、コロナ禍以前と同等の規模での開催とすることができた。34件のフリーマーケット出店、555名の来場者を得た。	当イベント内にて回収しているアンケートにも記載されているとおり、当イベントの宣伝の更なる強化やエコ工房館内にて実施しているフリーマーケットの周知が課題となる。						
									令和4年度実績値 413	令和5年度実績値(1月末時点) 555									
計画年度	令和6年度							令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策									
	事業の方向性(維持・拡充・縮小)							拡充	拡充	拡充	当イベントの宣伝の更なる強化やエコ工房館内にて実施しているフリーマーケットの周知								
子ども服交換会実施回数【回】	令和4年度目標値 20	令和5年度目標値 20	令和6年度目標値 18																
	令和4年度実績値 20	令和5年度実績値(1月末時点) 14																	
子ども服交換会参加人数【人】	令和4年度目標値 200	令和5年度目標値 200	令和6年度目標値 200																
	令和4年度実績値 107	令和5年度実績値(1月末時点) 61																	
計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策															
事業の方向性(維持・拡充・縮小)	拡充	拡充	拡充	当イベントの宣伝の更なる強化やエコ工房館内にて実施しているフリーマーケットの周知															

基本目標	施策方針	取組の方向性	事務事業No. (報告用)	事務事業名 (報告用)	担当課	事務事業内容	指標			令和5年度成果(令和6年1月末時点)	令和5年度課題(令和6年1月末時点)	
							指標名称【単位】	目標値及び実績値				
基本目標Ⅲ 循環型社会・脱炭素社会を実現する	省エネ活動、再生可能エネルギー導入の促進	国民運動「COOL CHOICE」の推進	3 2 1 - 1	市民向け啓発事業の開催による省エネ行動の促進	環境整備課	「緑のカーテンエコプロジェクト」でのグリーンカーテンの普及、「打ち水大作戦」や「クールシェアいづか」等の地球温暖化防止に関する各種啓発事業を実施することにより、市民の温暖化防止活動への意識向上を図る。	啓発事業開催数【回】	令和4年度目標値 5	令和5年度目標値 4	令和6年度目標値 4	グリーンカーテン普及を目的とした「緑のカーテンエコプロジェクト」、夏季の冷房使用数の低下や省エネ学習を目的とした「クールシェアいづか」、打ち水普及や省エネ学習を目的とした「打ち水大作戦」、太陽光電池を用いたランプ工作教室による再エネ普及を目的とした「エコLightナイト」を開催した。	主催イベント数が多い課であるため、参加者数を維持しつつ、各イベントに対する人件費を可能な限り抑えられるような方策を考案・実施する必要がある。
							令和4年度実績値 4	令和5年度実績値(1月末時点) 4				
		啓発事業参加者数【人】	令和4年度目標値 700	令和5年度目標値 300	令和6年度目標値 450	・緑のカーテンエコプロジェクト：235名参加 ・クールシェアいづか：54名参加 ・打ち水大作戦：69名参加 ・エコLightナイト：56名参加						
		令和4年度実績値 296	令和5年度実績値(1月末時点) 414									
		計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策						
		事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	各イベントにおいて参加者数を維持しつつ、人件費を可能な限り抑えられるような方策を考案・実施						
	3 2 1 - 2	市職員の省エネ行動促進	環境整備課	第3次飯塚市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の推進の一環として、市職員の省エネに関する取組状況調査を実施し、市職員の省エネ行動を促す。	職員の取組状況調査実施回数【回】	令和4年度目標値 1	令和5年度目標値 1	令和6年度目標値 1	年度当初に優先的取組項目として省エネに関する取組の15項目を設定し、全職員に取組の実施を促した。また、設定した項目の取組状況について12月に調査を行い、行動について振り返ることで、省エネに関する取組の意識付けに繋がった。	職員に対する啓発、取組状況調査による行動の振り返りを毎年行うことにより、省エネ行動が全体的に定着してきているように感じる一方、積極的に取り組んでいない人が一定数見受けられる。そこへどう働きかけるか等の啓発方法の工夫を行う必要がある。また、近年の気候変動による厳しい暑さ・寒さを鑑み、健康面に配慮した啓発を行っていく必要がある。		
					令和4年度実績値 1	令和5年度実績値(1月末時点) 1						
	計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策							
	事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	優先的取組項目の更新、庁内掲示板を用いた情報提供・啓発の実施							
	家庭や事業所、学校などへの省エネ・再生可能エネルギー設備導入促進	3 2 2 - 1	公共施設における再生可能エネルギー利用の促進	環境整備課	第3次飯塚市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の推進の一環として、市が所管する学校や公共施設における太陽光パネルの設置を促進する。	公共施設等における太陽光パネル設置件数【件】	令和4年度目標値 36	令和5年度目標値 37	令和6年度目標値 37	今年度においては、飯塚市総合体育館の新設の際に太陽光発電設備(10kW)の導入を実施。	施設更新時のみの導入となっており、既存施設における導入可能性調査の検討の余地がある。今年度策定中の再エネ導入目標計画に沿って効果的に進めていく必要がある。	
						令和4年度実績値 36	令和5年度実績値(1月末時点) 37					
		計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策						
		事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	公共施設の更新計画に基づく施設更新・新設時において、費用対効果やエネルギー効率、補助金の活用等を考慮しながら、太陽光発電設備の設置を検討する。また、補助金等を活用し、既存施設を対象とした導入可能性調査の実施を検討。						
	3 2 2 - 2	再生可能エネルギー導入目標の策定	環境整備課	2030年までの46%減、2050年までの脱炭素化の目標実現に向け、効率的に再生可能エネルギーの導入を進めるため、目標実現に必要な再生エネルギー導入量、及び導入に向けた施策等を定める『飯塚市再生可能エネルギー導入目標』を策定し、第3次飯塚市環境基本計画への反映を行う。導入目標策定に係る調査・推計等の策定支援業務については、本市と包括連携協定を締結している近畿大学 産業理工学部へ委託し、さらなる官学の連携推進を図る。 ※令和5年度：再生可能エネルギー導入目標等の策定 令和6年度：『地球温暖化対策実行計画【区域施策編】』への反映	再生可能エネルギー導入目標等の策定【式】	令和4年度目標値 -	令和5年度目標値 1	令和6年度目標値 -	脱炭素社会の実現に向けて国と同じく本市でも掲げている、「2030年までに二酸化炭素排出量を2013年度比で46%減、2050年までに実質ゼロにする」という目標の達成のため、本市においてどのような再生可能エネルギーを導入すべきかについての目標を現在策定中である。	今年度策定した導入目標を来年度に「第3次飯塚市環境基本計画」へ反映させる予定であるが、反映にあたっては、より実効性のある計画にするため、環境審議会にて十分な審議を行う必要がある。また、市の目指す方向性や取組が、市民の方に伝わりやすいよう工夫を行う必要がある。		
令和4年度実績値 -					令和5年度実績値(1月末時点) 1							
『地球温暖化対策実行計画【区域施策編】』への反映【式】					令和4年度目標値 -	令和5年度目標値 -	令和6年度目標値 1					
令和4年度実績値 -					令和5年度実績値(1月末時点) -							
計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策								
事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	廃止	廃止	計画の実効性を確保するため環境審議会にて十分な審議を行う								
地産地消の推進(フードマイレージの低減)	3 2 3 - 1	地産地消の推進	農林振興課	飯塚市地産地消推進協議会へ補助金を交付し、地産地消拡大を推進する活動を支援するもの。	農業体験【校】	令和4年度目標値 4	令和5年度目標値 4	令和6年度目標値 4	市内4校の小学校を対象に農業体験を行い、食育及び地産地消の推進を図った。	農業体験の内容の更新の検討や、イベントでのPRができていないため、新たなPRの場の検討する必要がある。		
					令和4年度実績値 4	令和5年度実績値(1月末時点) 4						
	各種イベントでの地元農産物直売、PR【回】	令和4年度目標値 5	令和5年度目標値 5	令和6年度目標値 5								
	令和4年度実績値 0	令和5年度実績値(1月末時点) 1										
	計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策							
	事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	農業体験学習の内容の検討や、新たなPRの場の発掘、検討が必要							
地球温暖化対策実行計画(事務事業編)に基づく対策の推進	3 2 4 - 1	第3次飯塚市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の推進	環境整備課	一事業所として、エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)、第3次飯塚市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)等に基づき、市施設でのエネルギー使用量の削減及びCO2排出量の削減に向けた取組を実施する。	地球温暖化防止対策実行計画(事務事業編)における温室効果ガス総排出量【t-CO2】	令和3年度目標値 14,179	令和4年度目標値 14,179	令和5年度目標値 14,179	令和4年度の温室効果ガス排出量は、12,190.55t-CO2となり、前年度と比較して約13%の減となっている。また、基準年度(H25)と比較した削減率は、61.4%であり、本計画の目標値である55.1%削減を達成している状況である。【補足資料有】	温室効果ガス排出量削減の主なもの電気が電気の、契約電力会社の電力調達に係る排出係数が小さくなったことが要因であり、使用量自体は増えている状況である。コロナ禍からの脱却によりイベントや活動が再開され、公共施設における使用量が増えたことが大きい。職員一人一人の行動についても見直しを行い、引き続き省エネに関する取組を進める必要がある。		
					令和3年度実績値 14,049	令和4年度実績値 12,191						
					計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策			
事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	第3次飯塚市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)における職員及び施設所管課への温室効果ガス排出量削減目標達成に向けた啓発活動の強化。								

基本目標	施策方針	取組の方向性	事務事業No. (報告用)	事務事業名 (報告用)	担当課	事務事業内容	指標				令和5年度成果(令和6年1月末時点)	令和5年度課題(令和6年1月末時点)
							指標名称【単位】	目標値及び実績値				
基本目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実現に向けた横断的取組 教育・協働・連携の推進 重点施策1	多様な媒体による情報発信	4 1 1 - 1	市公式ホームページの充実	情報管理課	行政に関わる情報を各課が作成し、ホームページ管理者(情報発信係)が内容を確認後、インターネットを經由して対外的に情報を発信している。また、閲覧者に適切な情報を発信するために、サイトの各種コンテンツの管理、サイトの充実並びに端末のセキュリティ確保等を行っている。	ホームページアクセス数【回】	令和4年度目標値 6,400,000	令和5年度目標値 6,700,000	令和6年度目標値 6,600,000	HPのリニューアルの検討のため近隣自治体に視察を行ったほか、先進自治体との情報交換を行った。アンケートの結果を踏まえて来年度に向けた小規模リニューアルへの取組を行うこととなった(HPの有料広告バナー位置変更など)。また、ホームページのリニューアルにかかる内部委員会の採択を受けることができた。	大規模リニューアルにおいては実施計画・予算面で次年度以降の調整となり、引き続き予算要求等を行っていくこととなった。昨年度に引き続きホームページのサーバー容量が圧迫しているため、公開中ページについて削減の取組を行っていく必要がある。	
							令和4年度実績値 6,426,576	令和5年度実績値(1月末時点) 4,940,124				
						計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策
			事業の方向性(維持・拡充・縮小)	拡充	拡充	維持	情報が古いと思われる不要ページの削除、データ容量の軽量化を引き続き率先して行い、サーバーの安定化に努める。また、職員を構成メンバーとする内部委員会を発足させ、HPリニューアルへ向けた検討・分析準備を進めていく。他自治体への訪問を重ねる。リニューアルに向けた各種予算要求を行っていく。					
		4 1 1 - 2	「広報いづか」による情報発信	情報管理課	毎月1回約47,000部、市民が必要とする情報を掲載した「市報」を発行する業務。編集については、民間企業のノウハウを活用するため一部委託にて実施。配布については、自治会294か所・公共施設、コンビニ、駅などで行い、また、市ホームページやアプリ、電子書籍サイトへ掲載することで、より多くの市民に情報を提供している。	掲載媒体数(アプリ・電子書籍・ホームページ)【媒体】	令和4年度目標値 5	令和5年度目標値 6	令和6年度目標値 6	外部から講師を招き、実務担当者・係長向けに、広報の考え方・デザイン等実務的な研修を行った。また、福岡県の先進自治体と配布方法や予算などの現状の情報交換を行った。	引き続き行政情報をより見やすく分かりやすく伝えていく必要がある。また、月毎の広報誌の総ページ数と各ページの情報密度にばらつきがあるため、内容の精査や予算も含めページ統制の方法を検討していく必要がある。	
							令和4年度実績値 6	令和5年度実績値(1月末時点) 6				
	計画年度					令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策			
		事業の方向性(維持・拡充・縮小)	拡充	拡充	拡充	行政情報をより見やすく分かりやすく伝えていくために、クロスメディアを活用した二次元バーコードの積極的な挿入、レイアウトの工夫や情報の集約などを行っていく。昨年に引き続き外部から講師を招き、伝え方など広報の考え方を含めた実務的な研修を実施する。						
	ICTを活用した多様なコミュニケーション手段の導入	4 1 2 - 1	AI自動応答サービスの導入推進	業務改善・DX推進課	AI自動応答サービス(AIチャットボット)は、会話情報をデータベースに蓄積させておくことで、会話をロボットが代行してくれるプログラムである。スマートフォン、パソコン、LINEから市役所に問い合わせを行う市民に対して、FAQ登録データを整備することで、24時間年中無休問い合わせへの回答を行うもの。最終的には、「職員の電話対応時間の削減」、「24時間年中無休対応による市民サービスの向上」、「電話が接続できない課題に対する解決」を図るもの。	FAQ登録数【件】	令和4年度目標値 3,000	令和5年度目標値 3,000	令和6年度目標値 3,000	自動応答の基礎となるFAQデータベースの整備を毎月継続することで、高い正答率を維持することができた。	現システムでは、新規FAQの登録に時間を要していること、毎月のログ精査に対する職員の負担が大きいことが課題である。また、一部分はシナリオ型、一部分は問一答型となっており、本市の幅広い業務に対し、どちらのスタイルが適しているか等の見直しを含めた方針の決定を早急に行う必要がある。	
							令和4年度実績値 2,521	令和5年度実績値(1月末時点) 2,549				
						計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策
			事業の方向性(維持・拡充・縮小)	拡充	維持	維持	ログ精査に係る職員負担の大きさとFAQの新規登録に要する時間が多大であるという本市チャットボットの課題について、現システムでの対応が難しい場合には、システム変更を含めた抜本的な見直しを検討する必要がある。					
4 1 2 - 2		小中学校における情報機器の導入推進	学校教育課	学校の通信インフラや情報機器の維持管理等を行うことで、円滑かつ効率的な情報教育及び学校業務のための環境を整備する。	各学校での定期メンテナンス回数【回】	令和4年度目標値 29	令和5年度目標値 29	令和6年度目標値 29	保守業者・ICT研究指導員とともに各学校を訪問し、通信障害やトラブルの情報を蓄積し、ネットワークの安定稼働を確保した。機器故障時の迅速な対応により、大きな機器トラブルは発生していない。また、来年度(令和6年度)に学級編成により増加となる教室については、アクセスポイントや電子黒板の整備を令和6年3月中に予定している。	整備開始時から利用している電子黒板は老朽化しているため、機器リプレイスを検討する必要がある。		
						令和4年度実績値 29	令和5年度実績値(1月末時点) 29					
	計画年度				令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策				
	事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	令和2年度に整備したGIGAスクール端末のリプレイスが令和7年度以降に必要なため、国の指針等を参考にリプレイスの計画を立てる必要がある。							

基本目標	施策方針	取組の方向性	事務事業No. (報告用)	事務事業名 (報告用)	担当課	事務事業内容	指標			令和5年度成果(令和6年1月末時点)	令和5年度課題(令和6年1月末時点)		
							指標名称【単位】	目標値及び実績値					
基本目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実現に向けた横断的取組 教育・協働・連携の推進 重点施策1	多様な主体、多様な世代の交流・連携の推進	自治会・交流センターの活用による地域コミュニティの活性化	4 2 1 - 1	中央公民館の利用促進	生涯学習課	市民グループ・団体等が公民館で学習やスポーツ及び集会等の自主的な活動が行うことができるよう、社会教育・生涯学習の拠点として快適な学習空間の提供や機材の貸出等を行う。	公民館利用者数【人】	令和4年度目標値 82,000	令和5年度目標値 82,000	令和6年度目標値 82,000	新型コロナウイルス感染症に伴う貸館の人数制限が撤廃となったため、昨年度と比較し、利用者数が増加している。リフレッシュコーナーの再開により、1日を通して利用しやすい施設になっている。	新型コロナウイルス感染症による人数制限が無くなったものの、コロナ禍以前より利用者数が減少している。施設の老朽化によりエアコン設備等に不具合が出ているため、改修工事前後の利用案内を十分に行い、工事後の新規利用者獲得に努める。	
								令和4年度実績値 62,756	令和5年度実績値(1月末時点) 62,489				
							計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策
							事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持			改修工事前後の周知を十分に行い、再開後の利用者獲得に努める。
			4 2 1 - 2	交流センター等を活用した市民サークル活動の促進	生涯学習課	学習者がグループを形成し、学習者相互の人間関係を構築しながら継続して学習し、その学習成果を地域に還元することでまちづくりにつなげていくことを目的とする。	サークル数【サークル】	令和4年度目標値 260	令和5年度目標値 260	令和6年度目標値 260	各交流センター担当者とサークル担当者会議を行ったことにより、今後の事業運営に向けより良い提案を行うことができた。各交流センターと相互協力してサークル生を募集し、今後の受講生数拡大を目指す。	コロナ禍が明けたことにより、サークルの開設条件を定員10名以上に戻した。開設できなかったサークルに対し、学びたいという意識を削ぐことのないよう、引き続き説明を行っていく必要がある。	
								令和4年度実績値 217	令和5年度実績値(1月末時点) 208				
							計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策
							事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持			中央公民館及び交流センター間でサークルの募集状況を共有し、相互的に広報を行うことにより受講生の拡大を目指す。
			4 2 1 - 3	まちづくり協議会に対する補助金の交付・人的支援	まちづくり推進課	まちづくり協議会の組織活性化及び地域の課題を地域で解決するような活動の推進を図ることを目的として、まちづくりに関する事業の計画作成や団体間の連携、協力に関する経費について「飯塚市まちづくり協議会補助金交付要綱」に沿った補助金の交付、及び人的支援を行う。	補助金の交付額【千円】	令和4年度目標値 33,291	令和5年度目標値 35,514	令和6年度目標値 35,965	コロナ禍で休止していた事業を再開させ、防災・防犯活動、福祉活動等の地域コミュニティ活性化に向けた活動を実施し、地域の様々な世代の交流を図ることができた。	次年度は再開された事業等、各地区の特色ある活動や地域の様々な世代の交流を図る活動を継続していけるよう支援する必要がある。また、まち協の取組に関して、電子黒板等を積極的に活用し、啓発活動等実施できるよう支援が必要である。	
								令和4年度実績値 32,916	令和5年度実績値(1月末時点) 35,434				
							計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策
							事業の方向性(維持・拡充・縮小)	拡充	拡充	拡充			まちづくり協議会の自主財源確保に向けた事業の検討、実施を推進するとともに、より一層の協働のまちづくりを推進するため、交流センターの指定管理者の主体となり得るよう、法人化に向けた検討、サポートを行う。あわせて地域づくり推進員へのまち協事務への参画をより一層進める必要がある。
			4 2 1 - 4	自治会への加入促進	まちづくり推進課	協働のまちづくりの根幹をなす自治会の加入を促進するために下記の事業を実施している。転入転居者に対し、市役所窓口で自治会に関する説明を行い訪問承諾書の記入をお願いしている。訪問承諾書は、自治会長に渡し、その後自治会による加入促進が行われる。	自治会加入率【%】	令和4年度目標値 72	令和5年度目標値 72	令和6年度目標値 72	・動画やポスターを作成し、各交流センターや地域活動団体が企画するイベント等で啓発を実施することができた。 ・地域の拠点である各交流センターにおいて常時ポスター掲示とチラシを設置し啓発を行うことができた。 ・自治会連合会と嘉穂無線ホールディングスで行った、防災ワークショップを初めて開催し、自治会の役割や重要性について啓発を行うことができた。	・今年度行ったワークショップや啓発活動を継続していき、今年度作成した動画やポスターを、掲示だけでなくSNS等を使って啓発していく。	
								令和4年度実績値 53	令和5年度実績値(1月末時点) 50				
							計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策
							事業の方向性(維持・拡充・縮小)	拡充	拡充	拡充			引き続き転入転居者向けの啓発を続けていく。関係所管課と連携して「訪問承諾書」の受付を行う。 ・自治会連合会加入促進部会において協議し、市ができること、各自治会ができることを具体化し啓発を実践する。
			4 2 2 - 1	環境に関する市民ワークショップの開催	環境整備課	広く市民の参加を募る市民ワークショップを開催し、環境課題や課題解決のための具体的取組について議論し、実行する機会を提供することにより、本市の環境施策の推進において市民参画によるマンパワーの確保、アイデアの創出を図るとともに、参加者が環境問題を「自分ごと」として考えるための意識を醸成し、市民が自発的に環境課題の解決に取り組むための土壌づくりを行う。	ワークショップの開催回数【回】	令和4年度目標値 4	令和5年度目標値 4	令和6年度目標値 4	今年度も環境ワークショップを4回実施予定としており、1月末時点で3回実施している。実施内容は以下のとおり。 ・第1回「環境問題についての講座と環境問題ペットボトルキャップ万年カレンダーの作成」 ・第2回「生ごみ処理機の作成・使用方法の学習」 ・第3回「食品ロスについての講座・食品ロスゲーム」	ワークショップや意見交換を行う会では、交わされる意見が多いほど良いため、より多くの参加者を募るための会場の選定や広報が必要となる。	
								令和4年度実績値 4	令和5年度実績値(1月末時点) 3				
							計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策
							事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持			参加者を集めるための広報、様々な実施会場の選定
4 2 2 - 1	環境に関する市民ワークショップの開催	環境整備課	ワークショップの参加人数【人】	ワークショップの参加人数【人】	令和4年度目標値 80	令和5年度目標値 80	令和6年度目標値 80	実施内容によって参加者の年齢や性別に偏りがあり、今年度は親子や高齢者の参加が多かった。 第4回については、外部講師を招き、省エネについての学習会を3月に実施する予定である。	ワークショップや意見交換を行う会では、交わされる意見が多いほど良いため、より多くの参加者を募るための会場の選定や広報が必要となる。				
					令和4年度実績値 82	令和5年度実績値(1月末時点) 43							
				計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策			
				事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持			参加者を集めるための広報、様々な実施会場の選定			

基本目標	施策方針	取組の方向性	事務事業No. (報告用)	事務事業名 (報告用)	担当課	事務事業内容	指標			令和5年度成果(令和6年1月末時点)	令和5年度課題(令和6年1月末時点)	
							指標名称【単位】	目標値及び実績値				
基本目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実現に向けた横断的取組 教育・協働・連携の推進 重点施策】	多様な主体、多様な世代の交流・連携の推進	多様な主体、世代が気軽に情報交換できる場の創出支援	4 2 2 - 2	市民交流プラザの運営による情報交換の機会創出	市民活動支援課	市民の自主的で公益的な活動を支援するための市民交流プラザを設置・運営する。平成30年度から市直営に完全移行し、市民活動の場の提供や各種情報提供等を行っている。	イベント情報誌の発行【回】	令和4年度目標値 12	令和5年度目標値 12	令和6年度目標値 12	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、利用制限の緩和を行ったことで、前年度に比べ、利用者数が増加した。	現状は、市民活動団体への活動場所の提供が主な業務となっている。より多くの主体、世代に利用してもらうため、ホームページ等の積極的な活用等により、情報発信力を強化する必要がある。県内類似施設から得た情報を施設運営に取り入れ、さらなる施設の有効活用を図る。
								令和4年度実績値 12	令和5年度実績値(1月末時点) 10			
							利用者数【人】	令和4年度目標値 7,700	令和5年度目標値 7,800	令和6年度目標値 7,800		
								令和4年度実績値 5,567	令和5年度実績値(1月末時点) 6,444			
							計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
							事業の方向性(維持・拡充・縮小)	拡充	拡充	拡充		
					次年度以降の改善策	福岡県NP0・ボランティアセンターや県内類似施設との情報共有や意見交換をさらに充実させ、施設運営に取り入れる。						
	環境保全団体などのネットワーク形成支援	4 2 3 - 1	ワークショップ開催によるネットワーク形成支援	環境整備課	広く市民を対象に、環境をテーマとするワークショップを開催し、各環境団体にとってのネットワークを広げるための機会提供を行う。	参加団体数【団体】	令和4年度目標値 10	令和5年度目標値 10	令和6年度目標値 10	一般市民の参加が多く、環境活動を行う団体同士が交流する機会を十分に用意できなかった。	環境保全活動に取り組んでいるNPO法人やまちづくり協議会、自治会、地元企業等がより多く参加するような方策を考える必要がある。	
							令和4年度実績値 11	令和5年度実績値(1月末時点) 2				
						計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			
		4 2 3 - 2	エコスタいっつか開催による情報交換の機会提供	環境整備課	市民や学校、環境団体等が取り組んでいる環境保全活動について、情報共有を行う機会提供を行い、市民や団体間のネットワーク形成を図る。	協力団体数【団体】	令和4年度目標値 60	令和5年度目標値 60	令和6年度目標値 60	環境保全に関する情報交換の機会の提供や市民の環境保全に対する意識の高揚を図るため、今年度は計57団体に参加協力をしている。 ・後援：2団体 ・協賛：14団体 ・環境保全活動発表団体：14団体 ・工作・体験、展示、物販の出展：24団体(うち1団体は後援団体) ・キッチンカー：5団体(うち1団体は協賛団体)	協力団体同士が積極的、相互的な意見交換を行う場(反省会・情報交換会等)を設けることができていない。	
							令和4年度実績値 40	令和5年度実績値(1月末時点) 57				
計画年度						令和6年度	令和7年度	令和8年度				
				事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	環境保全活動に取り組む団体等への声掛けや通知				
								次年度以降の改善策	協力団体が参加する、開催後の反省会・情報交換会等の実施			
環境教育・学習の充実	エコ工房、コミュニティセンター、交流センターを活用した講座、セミナーイベントの拡充支援	4 3 1 - 1	コスモス大学における講座開催	生涯学習課	高齢者に学習の機会を提供し、健康で充実した生きがいづくりと積極的な社会参加を促し、教養の向上を図るとともに、習得した知識や技術などを人材派遣事業やボランティア活動を通して、地域に還元できる人材の育成を目指す。	受講者数【人】	令和4年度目標値 175	令和5年度目標値 175	令和6年度目標値 100	・新型コロナウイルス流行前まで実施されていた研修旅行を実施し、各コースおよび学年間を超えた交流の場を提供する。 ・一般教養課程においては、学生の希望に沿った講座を開催できるよう多方面からの情報収集を行う。 ・新1年生の入学者が少なく、2年生へ編入する方針をとったため、次年度募集を行う場合は、広報の内容やタイミング見直しを図る。		
							令和4年度実績値 128	令和5年度実績値(1月末時点) 93				
						年間実施講座数【回】	令和4年度目標値 360	令和5年度目標値 285	令和6年度目標値 184			
							令和4年度実績値 225	令和5年度実績値(1月末時点) 184				
						計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			
						事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持			
				次年度以降の改善策	次年度は、全イベントの実施に向けて取り組む。							

基本目標	施策方針	取組の方向性	事務事業No. (報告用)	事務事業名 (報告用)	担当課	事務事業内容	指標			令和5年度成果(令和6年1月末時点)	令和5年度課題(令和6年1月末時点)		
							指標名称【単位】	目標値及び実績値					
基本目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実現に向けた横断的取組 教育・協働・連携の推進 重点施策	環境教育・学習の充実	エコ工房、コミュニティセンター、交流センターを活用した講座、セミナーイベントの拡充支援	4 3 1 - 2	エコ工房の利用促進	環境整備課	環境保全に関する情報発信・学習体験の場の提供を目的とした、飯塚市が所有する環境教育施設(飯塚市リサイクルプラザ工房棟)の管理運営事業。施設の管理運営を指定管理者に委託している。	各種環境教室等の開催数【回】	令和4年度目標値 188	令和5年度目標値 196	令和6年度目標値 184	エコ工房にて様々な環境教室を実施し、市民に対する環境啓発を図った。1月末時点において139回の環境教室等を開催し、1,048名が参加・受講した。イベントについては、コロナ禍以前と同等の規模で実施することができるようになり、エコ工房まつりの参加者数の増加がみられた。1月末時点においてイベントを18回開催し、730名の参加があった。	イベントによっては、参加者数の減少が見受けられるものがある。	
								令和4年度実績値 128	令和5年度実績値(1月末時点) 139				
							各種環境教室参加者数【人】	令和4年度目標値 1,630	令和5年度目標値 1,630	令和6年度目標値 1,630			
								令和4年度実績値 1,009	令和5年度実績値(1月末時点) 1,048				
							イベントの開催数【回】	令和4年度目標値 24	令和5年度目標値 33	令和6年度目標値 33			
								令和4年度実績値 23	令和5年度実績値(1月末時点) 18				
		イベント参加者数【人】	令和4年度目標値 1,400	令和5年度目標値 1,400	令和6年度目標値 1,400								
			令和4年度実績値 617	令和5年度実績値(1月末時点) 730									
		計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策							
		事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	エコ工房における各種環境教室・イベントの周知強化							
		専門家による自然観察会の開催	4 3 2 - 1	自然体験プログラム「いいねん!」の開催	環境整備課	地元専門家との協力のもと、主に小学生とその親世代を対象とした、自然体験プログラムを開催し、自然環境保護意識の醸成を図る。	自然体験プログラム開催回数【回】	令和4年度目標値 22	令和5年度目標値 22	令和6年度目標値 22	1月末時点において、自然体験プログラム「いいねん!」を計16回開催し、150名の市民が参加した。自然と触れ合う貴重な機会として子どもたちが楽しんで参加している。天候不良による2回の中止を除き、3月末で20回の開催となる見込みである。	自然体験プログラムにおいて現地指導(昆虫の捕獲、動植物の解説等)を行う講師は、開催前の現地確認、観察会ルートの設定、当日資料の作成など、当日の現地指導以外の事前準備に多くの時間を費やしており、講師謝礼金に対し、負担が過大となっている。そのため次年度では、謝礼金の見直しを行っている。また、新規参加者獲得のために自然体験プログラムの実施内容の見直しを行い、新規事業の実施等の工夫等が必要かと考える。	
								令和4年度実績値 20	令和5年度実績値(1月末時点) 16				
自然体験プログラム参加者数【人】	令和4年度目標値 300						令和5年度目標値 290	令和6年度目標値 220					
	令和4年度実績値 211						令和5年度実績値(1月末時点) 150						
計画年度	令和6年度						令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策				
事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持						維持	維持	新規参加者獲得のための自然体験プログラムの実施内容の見直し				
学校などにおける環境教育の推進	4 3 3 - 1	環境学習教材の配付	環境整備課	環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律に定める基本理念に則り、環境保全の意欲の増進を目的とした環境教育事業や、環境教育の支援を行う。	環境副読本配付回数【回】	令和4年度目標値 1	令和5年度目標値 1	令和6年度目標値 1	今年度は福岡県により福岡県環境教育副読本「みんなの環境」が配付されている。令和5年度エコスタいづかにおいて、パネル展示団体である片島小学校が、環境副読本をもとに行った環境学習のまとめ資料を使用したパネル展示を行う予定である。	市内における副読本の活用状況についての把握が不十分である。			
						令和4年度実績値 1	令和5年度実績値(1月末時点) 1						
					計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度			次年度以降の改善策		
	4 3 3 - 2	小中学校における環境保全活動の推進	環境整備課	身近な環境問題や活動に関心をもってもらうため、エコスタいづか(環境教育推進大会)において、市民・団体等が日頃行っている環境保全活動を広く周知するとともに、様々な体験を通して環境保全活動を推進させる。	エコスタいづかへの来場者数【人】	令和4年度目標値 800	令和5年度目標値 800	令和6年度目標値 1000	環境保全に関する情報交換の機会の提供や市民の環境保全に対する意識の高揚を図るため、計14団体に普段取り組んでいる環境保全活動のパネル展示に協力いただく予定である。	市内小中学校や環境保全活動に取り組む団体に更なる呼びかけを行い、参加団体数を増やすことによって、来場者へのより積極的な環境保全への呼びかけが可能かと考える。			
						令和4年度実績値 1100	令和5年度実績値(1月末時点) 1,000						
					活動発表学校数【校】	令和4年度目標値 10	令和5年度目標値 10	令和6年度目標値 10					
	令和4年度実績値 8	令和5年度実績値(1月末時点) 8											
計画年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	次年度以降の改善策									
事業の方向性(維持・拡充・縮小)	維持	維持	維持	当イベントの周知活動の強化									

第3次飯塚市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)

<達成状況> 目標値:令和12年度に基準年度(H25)から55.1%削減

	項目	発熱量	排出係数	CO2換算係数(44/12)	平成25年度(第3次基準)	令和3年度	令和4年度	前年度比R4/R3	基準年度比R4/H25	削減率R4/H25	
施設	電気 使用量		tco2/kWh		36,826,689 kWh	32,348,665 kWh	35,194,482 kWh	108.8%			
			※変動あり		21,458 tco2	12,491.15 tco2	10,748.43 tco2	86.05%	50.09%	49.91%	
	重油 使用量	39.1	GJ/kl	tco2/GJ	3.6667	836,994 L	143,142 L	164,859 L	113.77%	19.46%	80.54%
						2,267.94 tco2	387.86 tco2	441.29 tco2			
	揮発油 使用量	34.6	GJ/kl	tco2/GJ	3.6667	2,573 L	3,416 L	2,263 L	66.25%	87.95%	12.05%
						5.97 tco2	7.93 tco2	5.25 tco2			
	灯油 使用量	36.7	GJ/kl	tco2/GJ	3.6667	537,206 L	153,412 L	76,961 L	50.17%	14.33%	85.67%
						1,337.37 tco2	381.92 tco2	191.59 tco2			
	軽油 使用量	37.7	GJ/kl	tco2/GJ	3.6667	6,916 L	19,650 L	12,380 L	63.01%	179.00%	-79.00%
17.88 tco2						50.79 tco2	32.00 tco2				
LPG 使用量	50.8	GJ/t	tco2/GJ	3.6667	137,846 kg	147,194 kg	151,342 kg	102.82%	109.79%	-9.79%	
					413.39 tco2	441.42 tco2	453.86 tco2				
石炭 使用量	29.4	GJ/t	tco2/GJ	3.6667	1,743,100 kg	0 kg	0 kg	0.00%	0.00%	100.00%	
					5,524.44 tco2	0.00 tco2	0.00 tco2				
都市ガス 使用量	46	GJ/1,000Nm ³	tco2/GJ	3.6667	20,384 m ³	19,872 m ³	25,227 m ³	126.93%	123.76%	-23.76%	
					46.76 tco2	45.59 tco2	57.87 tco2				
産業用以外 蒸気量	1.36	GJ/t	tco2/GJ	3.6667	0 m ³	0 m ³	0 m ³	0.00%	0.00%	100.00%	
					0.00 tco2	0.00 tco2	0.00 tco2				
自動車	ガソリン車 使用量	34.6	GJ/kl	tco2/GJ	3.6667	140,786 L	73,493 L	77,618 L	105.61%	55.13%	44.87%
						326.86 tco2	170.63 tco2	180.20 tco2			
	軽油車 使用量	37.7	GJ/kl	tco2/GJ	3.6667	67,455 L	27,931 L	30,970 L	110.88%	45.91%	54.09%
						174.37 tco2	72.20 tco2	80.06 tco2			
温室効果ガス排出量合計					31,572.97 tco2	14,049.49 tco2	12,190.55 tco2	86.77%	38.61%	61.39%	
原油換算エネルギー量					12,349 kl	8,803 kl	9,394 kl				

令和4年度の温室効果ガス排出量は、12,190.55t-CO2となっており、令和3年度と比較して約13%の減となっています。また、基準年度(H25)と比較した削減率は、61.39%となっており、本計画の目標値である55.1%削減を達成している状況です。今後も引き続き削減に向けた取組を行っていく必要があります。

温室効果ガス排出量減少に最も寄与しているのは電気であり、1,742.72t-CO2の減少となっていますが、使用電力量に着目すると2,845,817kWh増加しています。このギャップは、契約電力会社の燃料調達に係る脱炭素化が進んだことで、排出係数が小さくなっているために生じています。

使用量については、市民の利用に供する施設で全体的に微増しており、要因としては新型コロナウイルス感染症の猛威が落ち着き、イベントや活動が再開され始めたためと考えられます。

また、自動車による増加についても同様に、コロナ禍からの脱却によるものと推測されます。

